



力を合わせて「しつけの三原則」を

「森信三」という人物がいます。

戦前・戦後を代表する教育実践家で、日本の教師であれば誰もがその名を一度は耳にしたことがあるはずです。

著書も数多く、教育界にとどまらずあらゆる分野の人々に、今尚深い影響を与え続けています。

その森信三が提唱していることの1つに、「しつけ三原則」があります。

子どもに身に付けさせたい生活のしつけは、様々あります。

朝起きてから…

食事の時…

人との接し方…

公共の場での振舞い方…

物の扱い方…

夜に眠る時…

細かく上げれば、きっと切りがありません。

けれども、それらを全て教え込むのではなく、「根本的なしつけ」を重点的に行えば、他のしつけも出来る様になる。

森信三氏は、そのように述べています。

では、根本的なしつけとは何か。

それが、以下の「しつけ三原則」です。

- 1、朝のあいさつ
- 2、ハイという返事
- 3、はきものを揃え、椅子を入れる

キーワードでまとめると、「挨拶・返事・後始末」となります。

この3つを、遅くとも小学校低学年までに身に付けることが出来れば、他のしつけは自ずと出来る様になるのだそうです。

氏の考えだけに頼るわけではありませんが、これら生活のしつけは、学習とも非常に深いつながりがあることは間違いありません。

これは、約20年間の教師生活で得た経験則でもあります。

ですから、小学校生活が始まって間もなくの現在は、特にこの3つを重点的に教えて、できた時にしっかり褒めたいと思っています。

例えば、「～～先生おはようございます」と名前を呼んで丁寧にあいさつができる子がこの1週間でどんどん増えてきました。

もちろんその場で盛大に褒めました。

また、教室では意図的に毎日「名前」を呼ぶようにしています。

健康状態などみんなの様子を知る意味もありますが、一番大切なのは「ハイ」と返事をする場を作ることにあります。

最近では、少しずつ全体の返事にもハリが出てきました。

さらには、後始末です。

すでに、各クラスで「席を離れる時は椅子を入れる」というマナーは着実に身につけてきています。

それどころか、友だちの椅子が出ている時に進んでそれを直してくれる子どももどんどん増えてきました。

瀬戸SOLAN小学校には「上靴」という文化はありませんが、トイレではスリッパを使用します。

そのスリッパの使い方も、大切な「後始末」です。

ですから、「朝の挨拶」と「ハイという返事」と「椅子の入れ方やスリッパの使い方」を通して、大切なしつけの基礎を培っていきたいと思っています。

ご家庭でも、その観点で成長が見られた時などがありましたら、ぜひ担任に教えていただければと思います。

学校でも、そうした内面の成長を共に喜び「お家でもこんな風にできたんだね。とっても素敵だね。」と褒めていきたいと思っています。

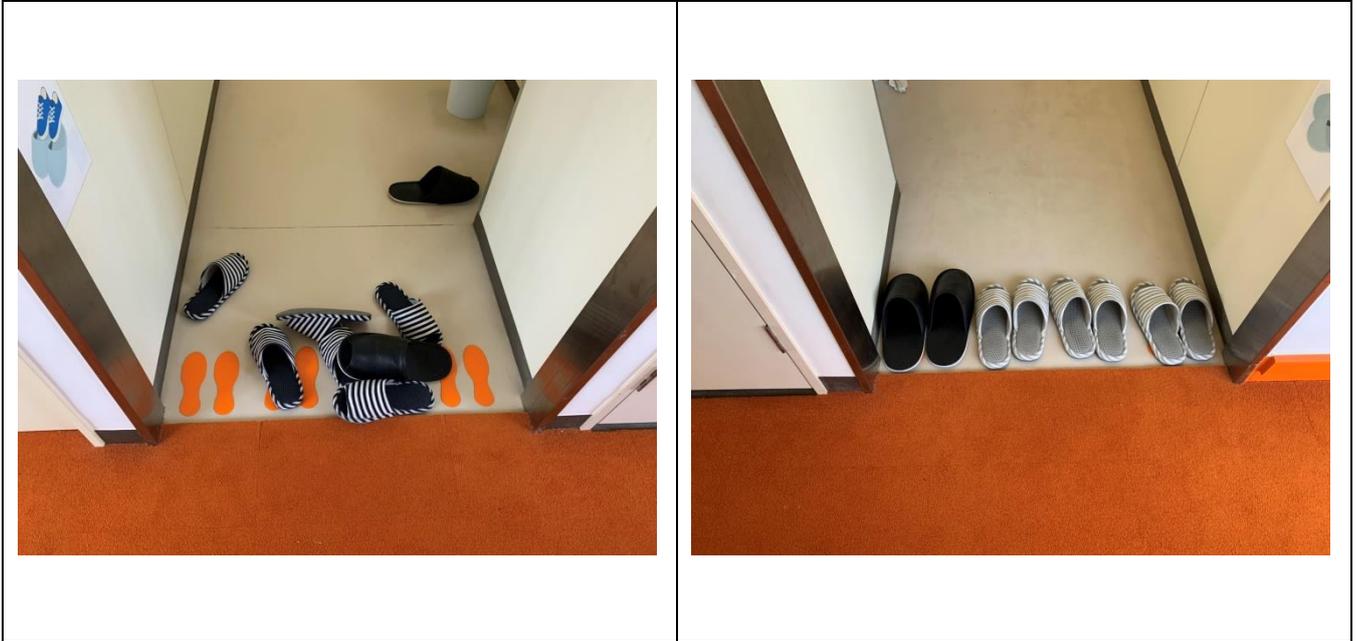
お子さんのご家庭の様子などで知らせたいことがあれば、メールでも構いませんし、メモ紙等を書いて持たせていただいても構いません。

学校と家庭でタッグを組んで、大切なしつけの礎を作っていきたいと思っています。

ちなみに、我々担任団は、こうした観点での育ちを図るために子どもたちの道具の扱い方を記録するようにしています。

例えば、初日のスリッパの使い方の写真です。

左が男子トイレ、右が女子トイレのものです。



とても対照的な写真ですが（笑）、伝えたいのは「男子の難しさ」などではありません。

「こんな風に使うんだよ」と教えても、それができるようになるまでは時間がかかるということをお伝えしたかったのです。

先行研究によれば、一つの習慣を身に着けるまでにかかる時間はおよそ3週間といわれます。

女子トイレのスリッパも、実は全員がそのように丁寧に使えていたわけではなくて、ある子が乱れていたスリッパをまとめて整頓してくれたというのが実際の姿でした。

どの子にも大切なしつけの基礎が身に着けられるように、これからも声をかけ続けていきます。

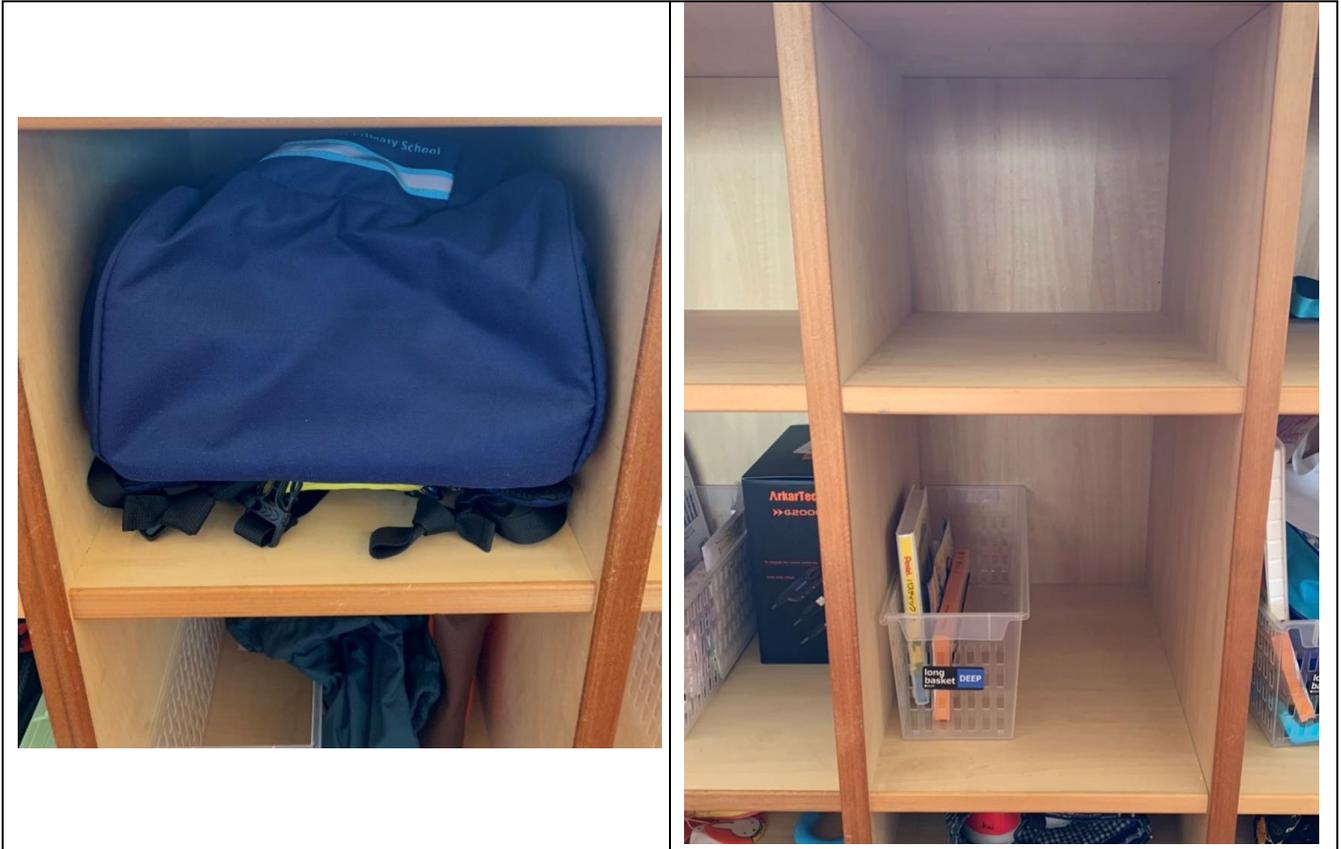
大切なことほど、点ではなく線の指導で、繰り返し繰り返し伝えていく必要があるからです。

ちなみに、「後始末」の確認ポイントは、「ロッカー」もそうです。

使い方の丁寧な例を取り上げ、クラス全体で共有し、前向きな雰囲気の中で少しずつ成長していけるのが理想です。

「リュックのしまい方」や「クーピーやクレヨンを整理の仕方」など、少

しずつ順を追って教えていきたいと思います。



また、下のようなかかるた教材を使っでの学習も始める予定です。



単に言って聞かせるだけでなく、楽しい雰囲気の中で少しずつしつけの基礎を育てていきたいと思います。